

順調に販売実績伸ばす

ハイテムサルメット種鶏ケージ

世界トップレベルのシステム 輸出にも取り組み



東洋システム(株)(安田勝彦社長)本社・岐阜県各務原市金属団地九七(四)のハイテムサルメット種鶏ケージが、順調に販売実績を伸ばし、輸出面でも健闘している。

同社は四年前に、サルメット社との合意に基づき、サルメット社の種鶏

高い受精率を可能にし、かつ破卵を抑える種鶏用ジェントルフローア。オスの動きをよくし、産卵環境をよくするため、ニップルは2ライン方式。左右に見えるのがコーナーパネル



稼働中のハイテムサルメット種鶏ケージ

H Tシリーズの特長について、同社では次のように説明している。

①サルメット社のオリジナル種鶏ケージの間口一・八一センチを四・八センチとし、一ケージ当たりのオス羽数を増やして、減耗の影響を少なくし、オスの管理をしやすくしている。

②四・八センチの間仕切り位置での産卵を分散するため、オスの視界を

③フロアー中央部のケージワイヤーを増やし、交尾時の安定性を図っている。

④フロアー前部は線

を折り込んでいる。

⑤ネストやスラットなどをなくし、オールアウト時の徹底した洗浄をしやすくしている。

⑥破卵知らずのニューエスカレーターなど、ハイテムサルメットの最新機器を装備している。

国内向けには、今年に入って種鶏用に二棟、ワ

クチン卵用に二農場六棟を受注するなど、順調に実績を伸ばしている。

東洋システムは、一昨年から、同システムの輸出に初めて取り組んだが、レイヤー種鶏ケージが普及しつつある日本のきめ細かい現場経験、情報を積極的に活用して改善を重ねた結果が、高く評価され、健闘している。今後も世界のトップレベルの種鶏ケージを目指すし、努力を続けていく、としている。

日本を除く地域への販売については、同社と二十年の提携関係にあるサルメット社の販売網を活用することのこと。